

聞き、話すことを通した 「生きづらさ」への民俗学的アプローチ

国際文化学部
日本文化学科
講師

川松 あかり



研究シーズの紹介

本研究は、「聞き書き」と「話し合い」の手法を用いて、誰もが日常生活のなかで抱きうる「生きづらさ」の克服に民俗学的にアプローチするものです。

日本民俗学を体系化した柳田國男は、「何故に農民は貧なりや」という問いを根本的な課題としてこの学問を構想しました。さらに柳田は、人びとが互いの実情を知り合うことで貧窮した人が孤立することを回避し、共同して自分たちの問題

を解決することができると考えました〔及川2023：43-46〕。

他人の生活史や経験の語りに耳を傾ける「聞き書き」や、日常生活の中にある様々な問題を共有するための「世間話」は、現代においても私たちが抱える「生きづらさ」にともに立ち向かうための手段となりえます。このような観点から、民俗学的手法を彫琢し、聞き、話すことに実践的に取り組んでいきます。



話し合いによる 経験と問題の共有

- 他愛ない世間話を出発点として、切実な「生きづらさ」に向きあいます。
- 聴き、話し合うことで、〈私〉の地べたから他者との繋がりを構築します。



元坑内労働者への聞き書き(撮影:長野聡史氏)

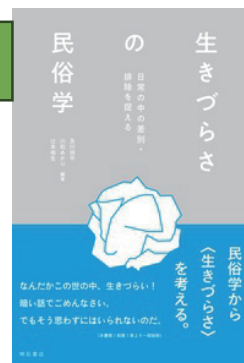
生活史の聞き書きと、 問題の共有



筑豊で行っている「地べたの声を聴く会」の様相(撮影:参加者)

話し合いの場づくり 問題の共有

聞き書きと話し合いの往 還から、問題解決実践へ



※成果物: 及川祥平・川松あかり・辻本侑生編著
2023『生きづらさの民俗学: 日常の中の差別・排除を捉える』明石書店

期待される活用シーン

- 私たちの人生には、「生きづらさ」がいっぱい
少し先に生きてきた人たちはどうやって乗り越えてきたのだろうか?



「聞き書き」によって、書籍やマスメディアでは伝え遺されてこなかった人びとの生きざまを知ることができます!



聞き書きの実践
およびその支援

- こんな問題を解決したい、あんなことをやってみよう!でも、誰と?どうやって??



地域課題の解決や、個々人のやりたいことを聞き取り、その実現に向けて柔軟に取り組めます!



地域や人びとの課題の解決や、社会課題の解決への取り組みの支援、夢の実現のための参加と協働

その他の研究テーマ

・旧産炭地筑豊における炭鉱労働者の経験の語り継ぎ